



e コミマップを用いた水土里情報の活用事例について紹介します

今回紹介する団体： 水土里ネット徳島

(1 / 2)

取組概要

内 容： eコミマップ(国立研究開発法人 防災科学技術研究所が無償公開しているWeb上で動作する地図情報システム)を活用し、水土里情報利活用促進協議会(以下「協議会」という。)会員に向けて、今までの事業成果の一部データをインターネットで公開することにより、水土里情報の更なる利活用推進を図る。

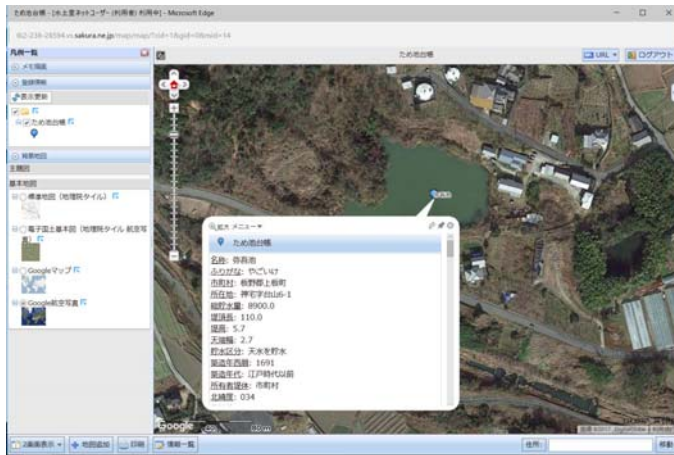
- 経 緯： ① eコミマップを活用するまでは、ArcGISソフトの簡易版となる「水土里GIS Light」を開発し、協議会会員毎にソフト及び水土里情報データを利用いただくことで、利活用を行っていた。
- ② 水土里情報の更なる利活用を進める中で、いくつかの課題が判明した。
- a) データの一元化
データを各自のパソコンや携帯端末に保存するのではなく、クラウド等、共有可能な環境に保存する等で更新を一元化。
 - b) 利用者の費用負担の軽減
利用団体(協議会会員)から会費等の徴収が難しいため、最低限の費用及び手間を賄う必要がある。
 - c) 簡易なGISの操作
特別な研修等を行うことなく、誰もが簡易に操作可能なGISシステムの構築。
- ③ 上記課題の克服に向けて検討を行った結果、公開用サーバーを設置し協議会会員のための「eコミマップ」を開設する運びとなった。



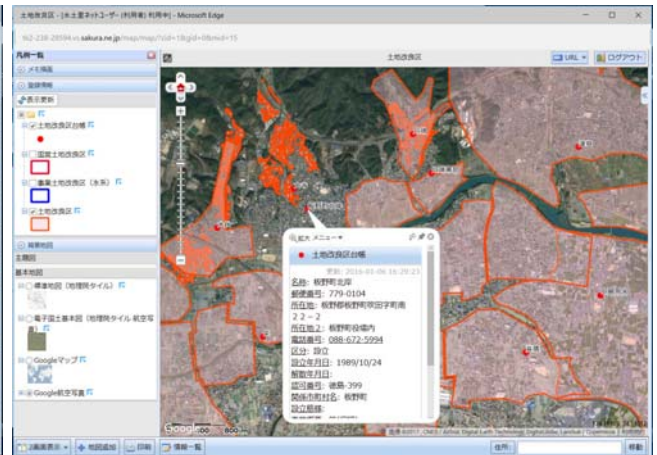
期待される効果

現時点でeコミマップには、農林水産省農村振興局からの①農業基盤情報、②国営造成水利施設等、また徳島県農山漁村振興課から提供を得た③ため池台帳、④地すべり指定等、⑤土地改良区、⑥津波浸水想定浸水区域、⑦ほ場整備完了区域図を登録しているが、協議会会員間で即時の情報共有が可能となっている。

ため池台帳



土地改良区



今後の活用予定

徳島県においては、南海トラフ巨大地震、中央構造線・活断層地震等が危惧されており、災害発災時、また災害復旧に際しては、官公庁及び農業関係団体同士の情報共有が重要と考えられる。

今後、「水土里ネット徳島eコミマップ」の入力情報の拡充を図ることにより、農業版BCP等にも活用し、通常業務のみならず有事の際の対応に少しでも寄与できれば幸いである。

GISシステムのバージョン情報

ArcGIS Desktop Ver10.0
水土里GISLight Ver2.3.2
eコミマップ Ver2.4.1

■お問い合わせ先

徳島県土地改良事業団体連合会 事業課 地域保全担当 088-626-3936

農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(愛宕、沖) 03-6744-2201(直通)